

# UK Space Conference 2019 参加報告

2019年10月3日



葛岡 成樹



## 目次

概要 .....	1
感想・分析 .....	2
(1) 2030 年に向けた UK 宇宙産業の振興 .....	2
(2) Brexit への準備 .....	3
主な講演と展示 .....	3
(1) 打上げ産業と射場 .....	3
(2) ハードウェア重視の UK 企業群 .....	3
(3) 通信関連 .....	3
ちよつと一言 .....	4

### 概要

2019年9月9日から12日の4日間、英国(UK) ウェールズ Newport 郊外のウェールズ国際会議センター(ICCW)にて第五回英国宇宙コンファレンス(UK Space Conference 2019)が開催された。UKの宇宙機関であるUK Space Agency(UKSA)などUKの宇宙関連組織のキーパーソンが委員会を結成してこのコンファレンスを主催している。このコンファレンスは2年に一度の開催であり、今年のテーマは「Inspire. Innovate. Grow. (激励・革新・成長)」であった。

今年の参加者は1,400人程度とのことであり、全体会議以外は3つの会議室に分かれて幅広い講演・議論が行われていた。また100社程度の企業展示もあった。

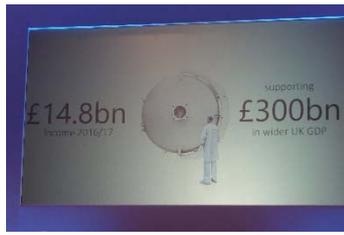
なお筆者はこのコンファレンスは4年前の第三回に続いての2度目の出席であり、欧州の中でも特に産業育成に意欲的なUK政府と民間の対応やBrexitに向けての準備状況を調査することを目的として参加した。



## 感想・分析

### (1) 2030 年に向けた UK 宇宙産業の振興

UK 政府は、現在 14.8b ポンドである UK 宇宙産業規模を 2030 年には全世界宇宙産業規模の



10%(現在 5.1%)に引き上げることを大目標としている<sup>1</sup>。UK の宇宙機関 UK Space Agency (UKSA) はビジネス・エネルギー・産業戦略省(BEIS)の下の機関として、この政策の決定・実行を中心となって担っている。UKSA はもともとが NASA や JAXA のような研究機関からできた機関ではなくあくまでも産業政策を目的とする省の傘下に設置した機関であり、自ら何かを開発するというより民間のビジネスをどう育成するかに重点を置いた施策立案・実行が責務となっている。また UKSA は産業コンサルタント London Economics や同じ BEIS 傘下の新産業育成機関 Innovate UK や Catapult とも連携を取りつつ、宇宙産業の拡大を図っている。とくに打ち上げサービスを含むスタートアップ企業の育成を支援する施策が多く実行されているようで、今回のコンファレンスでも、各セッションで UKSA の方向性や UK 宇宙産業の実績とともにこれら支援施策が大々的に示された。

感想としては第一に、これだけ自国の宇宙産業の各種統計データをきちんと整備して、そのデータに基づいて議論していく姿勢には頭が下がった。

ただし話を聞いていて、大きく違和感を覚えた点があった。確かにスタートアップ企業や新ビジネス

セグメント(打上げ産業)を育成するのは良い。これは重要なことであり、異議はない。ただし産業規模という「量」を確保するのにスタートアップや新ビジネスセグメントの育成だけで良いのだろうか。実際現状の UK 宇宙産業規模 14.8b ポンドの半分近くが DTH(家庭向け直接衛星放送)のサービス(48%)であり、しかもこのサービス規模は縮小しつつある。この状況からさらに量の拡大を図る場合、スタートアップや新ビジネスセグメントの育成で 10%という目標実現が可能だろうか。UKSA や Catapult、さらには民間の人たちと個別に議論を重ねた。

正直この問いには解がないことは筆者も承知の上の間ではある。多くの人と議論したが、表のプレゼンには出ないものの皆悩んでおり、議論すること自体が重要だということまでしか話は進まなかった。UK 発である OneWeb に期待を寄せる、防衛向け通信衛星 Skynet プログラムで Airbus など大企業を支援する、あるいは ESA の Advanced Research in Telecommunications Systems (ARTES)プログラムに UK として積極的に参加するなど、大きな量を狙おうとする試みも実行されてはいる。ただしあるパネルで Lockheed Martin UK の発言、「大企業としては政府の契約はぜひとも必要である。ただしこれは価格に比べてはるかに良いサービスを大企業が提供できるからであり、世界的に競合可能な民間サービスを政府が積極的に使うことが必要。」が今後の鍵となろう。また同じ人の発言、「大企業において New Space 分野でのイノベーションは本当に難しい。大企業の売り上げをいかに小さな企業(およびスター

<sup>1</sup> 注：2030 年における UK の目標宇宙産業規模額、世界の宇宙産業規模額絶対額は明示せず、比率

のみを目標としている。

トアップ)に回すかが重要。」が気になった。大企業とスタートアップなどの中小企業とがいかに連携してイノベティブで量を稼げるサービスを構築できるかを今後とも考えていきたい。

## (2) Brexit への準備

Brexit についてまとまったパネル・議論はなかったが、複数のパネルの中で UKSA など政府関係者が Brexit について触れた。いずれも Brexit を大きなチャンスとしてとらえているのが目立った。

UK 政府としては Brexit 後の UK 全体の経済冷え込みを防ぐため、宇宙産業をさらに育成し、強力に支援するとのこと。具体的には打上げ射場への支援、またここでも ARTES プログラムへのさらに積極的な関与や防衛通信衛星 Skynet 開発などが挙げられた。

さらに Brexit は従来 EU 域内を輸出主要市場としてきた UK として<sup>2</sup>、Brexit をチャンスと捉えて北米やアジアへの輸出をさらに伸ばそうとの意思表示もなされた。

また SSLT 社など民間企業からは、Brexit は政府の仕組みをうまく使う良い機会となるとの発言があった。これは Catapult など英国の宇宙産業支援設備・制度を民間がもっと使えるようになるとの期待感を示したと言える。

一方会場で何人かの人にインタビューしたところ、正直 Brexit についてそんなに気にしている反応は少なかった。ある人は、「Brexit があっても射場は作るし、Brexit が無くても射場は作る。我々は淡々と仕事をこなすだけ。」と覚めた見方をしているのが印象的だった。

## 主な講演と展示

### (1) 打上げ産業と射場

### (2) ハードウェア重視の UK 企業群

### (3) 通信関連

---

<sup>2</sup> 宇宙ビジネス 14.8b ポンドのうち輸出が 37%の 5.5b ポンド。また輸出全体のうち UK 外の欧州比

率は現在 54%。

## ちょっと一言



作家サマセット・  
モーム曰く「イギリ  
スで美味しい食事が  
したければ、1日に  
3回朝食を取ればい

い。」今回もコンファレンス会場併設のホテルに  
宿泊し、ホテルとコンファレンス会場を往復する  
缶詰状態の4日間で一番印象に残った食事はホテ  
ルの朝食であった。

形式はバイキングとはいえ、そこに並んでいる  
料理は伝統的な英国の朝食を構成するメニュー  
である。メインはステーキかと思われるほどの厚  
切りのウェールズ・ローカルベーコンやちょっと  
癖のあるブラックプディング。これに焼きトマト  
とマッシュルーム、バイクドビーンズ、ハッシュ  
ドポテトを盛り付けて薄切り食パンのトースト  
と合わせると、フル・ブレックファーストといわ  
れる朝食の完成。この朝食は、コーヒーではなく  
紅茶で食べるのが良かったか。

本報告書へのお問い合わせは：



株式会社 サテライト・ビジネス・ネットワーク

<http://sat-biznet.com>

葛岡 成樹

E-mail: [shigeki-kuzuoka@sat-biznet.com](mailto:shigeki-kuzuoka@sat-biznet.com)

TEL: 080-2052-1348

**Euroconsult**

ユーロコンサル日本事務所

<http://www.euroconsult-ec.com>

葛岡 成樹

E-mail: [shigeki.kuzuoka@euroconsult-jp.com](mailto:shigeki.kuzuoka@euroconsult-jp.com)

TEL: 080-2052-1348